

平成二七年度歴史資料共同調査報告会の発言から

『田辺町近代誌』編さんの取り組みについて

上村 公則

私は元田辺町総務課近代誌編さん係で、現在は京田辺市郷土史会の副会長を務めています。

私の方からは、『田辺町近代誌』を編さんした時の取り組みなどについてお話をさせていただきます。

私が、郷土の歴史に興味を持つようになりましたのは、小学校の五・六年の時の担任の西川滋先生が、たいへん田辺の歴史に詳しい方でしたので、自分の住む町のいろんな歴史を教えていただいたことがきっかけであったように思います。そんなことから、それ以降も、知らず知らずに、地元田辺の郷土史というものに興味を持つようになったのかなと思っています。

その後、田辺町役場に勤務し、私が歴史好きだったからかどうかよく分かりませんが、『田辺町近代誌』（昭和六二年）と『田辺町近世近代資料集』（同前）の編さんに、事務局という立場で関わらせていただくことになりました。もう、三〇年も前のことにはなりますが、その当時に事務局として、関わらせていただいた時のいろんな話や経験などを通して、今日はみなさんに何か一つでもメッセージを発信できれば、うれしいなと思っています。

まずは、『田辺町近代誌』と『田辺町近世近代資料集』の編さんの概要について、少し触れておきたいと思います。『田辺町近代誌』は、田辺町の近代に特化した町史として、田辺町の町制施行八〇周年、町村合併三五周年を記念して、昭和六二年三月に発刊されました。昭和五八年四月頃から編さん事業に着手し、当時の総務課に「近代誌編さん係」が置かれ、私も事務局の一員として、編さんのお手伝いをさせていただきました。編さんの組織としては、昭和五八年一月に「田辺町近代誌編さん委員会」を設置、昭和五九年一月に、当時、同志社大学教授であった今中寛司先生を編さん顧問に迎え、分野ごとに八名の「執筆委員」の委嘱を行いました。

一方、資料調査としては、昭和五九年初頭から町有文書、いわゆる合併前の旧町村役場資料を町が保管していましたので、その調査を皮切りに、同年七月には、大住・田辺・草内・三山木・普賢寺の五地区それぞれに三名、合わせて一五名の「調査委員」を委嘱し、本格的に町内の資料調査を開始しました。調査をしました文書等は、自治会や各種団体の文書約二千点、社寺文書約二千点、個人所蔵文書約一万五百点、町有文書約一千五百点、合わせまして、総点数約一万六千点でした。

当時、資料調査に当たっては、せっかく資料調査をするのだから、田辺町の古い資料は、全部調査してみようという意気込みで取り組みました。しかしながら、私たちでは私たち

の知る範囲の限られたお宅の資料しか調査できませんでした。そこで、郷土史会の役員さんや会員さんにご協力いただき、調査を進めることになりました。幸い、郷土史会の役員さんや会員さんは、田辺町内の全地区におられることから、それぞれの地区の調査委員をお願いしました。調査委員さんからの情報を元に、各地区の古文書などの所有者などに連絡を取り、場合によっては調査委員に同行していただき、所有者宅での調査を基本に資料調査を行いました。その際に調査を行いましたのは、大住地区で三二箇所、田辺地区で三七箇所、草内地区で二四箇所、三山木地区で三一箇所、普賢寺地区で二五箇所、町外で一五箇所の、併せて一六四箇所でした。

調査に当たっては、調査に協力的なお宅もあれば、そうでないお宅もありました。また、調査をいっさい拒否されたお宅もありました。私たちは、町の歴史書を作るために必要な資料であるので、協力いただきたいと説得はするのですが、やはり、所有者のお考えもあり、調査が困難なケースもありました。一方で、我が家の歴史を是非調べて欲しいといわれ、証文に至るまで、すべてを調査させていただいたお宅もありました。調査させていただいた文書は、基本的に一点一点、読み下しを行い、表題を付して、封筒に整理し、調査箇所ごとに調査目録にまとめ、保存用の段ボール箱に目録と一緒に整理し、所蔵者には「田辺町にとって、大変貴重な歴史資料であるので、大切に保管してもらいたい」旨を伝え、保存の

お願いを行いました。

当時、田辺町には、近代誌編さんに伴う資料調査で発掘された古文書等を保管・保存する施設も場所ありませんでした。田辺町で保管して欲しいとおっしゃる所有者も何人かあり、私たちも将来の資料の散逸を憂慮し、なんとか資料をお預かりし保管したかったのですが、なんともできず、特に事情のあった一部はお預かりしましたが、大部分の資料は所有者の手元に残ったままで、保存するかどうかはその所有者の判断にまかされ、三〇数年の月日が流れてしまいました。

これら近代誌編さんに伴う資料調査で発掘された古文書などは、今現在、どのような状況にあるのでしょうか。今も、時々「どうなっているのかな？」と気になることがあります。例えば、住宅の改築の際にゴミとして捨てられたり、世代交代による家に残る古い資料に対する認識の違いなどから古文書などが廃棄されるなど、三〇数年前と比較して、資料も相当数減少しているだろうなと思っています。その当時に、調査した資料をきちんと保存しておくべきではなかったかと、今も悔やまれる次第です。

このような状況を今後も放置すれば、そう遠くない時期に、京田辺市の歴史を語る上で貴重な多くの歴史資料を失うことになりかねないものと考えます。京田辺市の古文書等を調査させていただいた立場から申し上げますと、一日でも早く、京田辺市に現存する古文書をはじめとする歴史資料の詳細

な調査を改めて、京田辺市に実施していただき、貴重な資料が今後散逸しないための保管や保存などに対する適切な方策を講じていただきたいと思います。そういう意味からも、先ほど東先生や竹中先生からご報告があった京田辺市と京都府立大学さんで行っていただいている「歴史資料共同調査」の今後の進展に、大いに期待を寄せている一人です。

もうひとつ、調査・発掘した古文書などの貴重な歴史資料を保管・保存し、公開・展示できる施設の話をしたいと思います。

この京田辺市に残る貴重な歴史資料は、京田辺市民みんなの宝物であると、私は思っています。従って、市民のみなさんに「京田辺市には、貴重な歴史資料がこんなにたくさんあるんですよ。このまま、ほっておいたら、みんな無くなってしまうんですよ。」というメッセージを、今のうちから市民のみなさんに発信しておかないと本当に貴重な歴史資料が無くなってしまうと思うのです。貴重なまちの宝物が無くないように、一日でも早く、市民のみなさんのために、歴史資料の展示や閲覧・公開ができる「歴史資料館」を設置していただきたいと思います。

先だつての「京田辺市文化振興計画」の最終の懇話会において、「文化施設の中核となる新たな施設の整備」方針が盛り込まれました。まだ、具体的なことは決まっていないようですが、私たち京田辺市郷土史会も以前から「歴史資料館」

の建設を強く要望していますので、将来できるその施設の中に「歴史資料館」のようなものができたらすごくうれしいなと、大いに期待を寄せているところです。

最後に、私はもうロートルですけど、これからの京田辺市を担っていくのは、このまちの子供たちですよ。

そんな子供たちに小さい頃から、京田辺市の歴史に触れ、学び、肌で「京田辺市はこんなにすばらしいまちなんや」と、感じたり思ったりできるように、私たち大人が子供たちに何かをしてあげないといけないと思うんです。例えば、私たち京田辺市郷土史会が主催して、子供向けの地元の歴史に関する勉強会をしてあげるとか、市内の史跡や伝承地に子供を連れて行ってあげて、現場でいろんな話をしてあげるとか。

それと、子供たちのために、わかりやすい京田辺の歴史読本のようなものも作ってあげたいですね。

京田辺市の歴史遺産を私たちが守ることももちろん大切なことなのですが、その遺産を引き継ぎ、未来へ伝えることができる子供たちを育むことも、私たち今の大人に課せられた大きな使命ではないかと思っています。